

(Ⅱ) 研修会の概要

◆三事業合同研修会

- 1 目的 「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業」に基づき、県内で実施される「学校支援地域本部」「放課後子どもプラン」「家庭教育支援活動」(以下「教育支援活動」)に関わるコーディネーターや安全管理員等の事業関係者が一堂に集まり、資質向上や情報交換等を図るための研修等を行い、県内における「教育支援活動」の総合的な推進を図ることを目的に実施する。
- 2 主催 滋賀県、滋賀県教育委員会
- 3 参加対象 各市町担当職員・学校支援地域本部関係者・放課後子ども教室関係者・放課後児童クラブ関係者・家庭教育支援活動関係者・子育て支援機関関係者
- 4 日時 平成25年7月17日(水) 13:00～16:20
- 5 日程
- 12:40～13:00 受付
 - 13:00～13:15 開会行事・三事業の事業説明
 - 13:15～14:50 講演 講師：生重 幸恵 氏
(NPO法人スクール・アドバイス・ネットワーク理事長)
 - 15:00～16:20 情報交換会、まとめ
 - 16:20 閉会
- 6 場所 県庁新館7階大会議室
- 7 参加者数 73名
- 8 概要
- (1) 演題 「学校・子どもを支援する地域づくり」
- (2) 内容



PISA調査から見た児童・生徒等の実態から現代日本の子どもたちの傾向や課題を示し、主体的な学びの促進のためには、「体験を取り入れた教育」の必要性について話された。

特に、教室が「リアルな世の中」と直結し、外部人材が使命感や誇りをもっている「本物の姿」に接すること等、豊富な体験による価値観の変容が大切である。こうした取組を進めるため、学校教育・社会教育・家庭教育が互いに連携し、それぞれの立場に応じて社会総がかりで教育を推進することで、心豊かな子どもの育成へとつながることをわかりやすく御指導いただいた。

(3) 情報交換会について

参加者が関わる事業ごとに分かれ、テーマを設定し、情報交換を行った。現場で事業を支えている参加者の悩みや他市町に尋ねたい内容など具体的な意見の交換がなされた。



(4) 参加者のアンケートより

- ・講師のお話は、いつ聞いてもエネルギーでした。また、経験を積まれた先生のお話はとてもわかりやすく、日々悩みながら取り組んでいるコーディネーターに力をいただきました。また、情報交換では、先進的な事例や体制づくりを知ることができ、参考になりました。
- ・様々な問題が山積する中、今まではぐくんできたものに一つずつ積み重ねて取り組むことが大切ですね。
- ・地域との関わりがいかにか大事か、考えさせられました。学校、地域、家庭が協働しながら取組を進められたらよいと思いました。

◆学校支援地域コーディネーター研修会 1

- 1 目的 学校と地域ボランティアを結びつけるために学校支援地域コーディネーターが果たす役割は、さらに期待されており、学校支援地域コーディネーター等の資質向上とネットワーク構築を図る。
- 2 主催 滋賀県、滋賀県教育委員会
- 3 参加対象 学校支援地域コーディネーター
- 4 日時 平成25年8月5日(月) 13:30～16:30
- 5 日程

13:00～13:30 受付

13:30～13:35 開会あいさつ

13:35～15:10 講演

講師：木村 真介 氏
(島根県邑智郡邑南町立
矢上小学校教頭)

15:20～16:20 県内の取組状況の情報交換

16:20～16:30 まとめ(講師より)

- 6 場所 滋賀県庁東館7階大会議室

- 7 参加者数 50名

8 概要

(1) 演題 「コーディネーターに求められるコミュニケーション能力」

(2) 内容

県が作成している「学校支援のためのハンドブック」をもとに、地域コーディネーターの役割を再確認した。その後、講師より地域コーディネーターに必要なとされるコミュニケーションスキルを実際の場面に即しワークショップ形式で研修した。人それぞれ理解の枠組みが違うことを意識した上で、情報を共有し、地域コーディネーターとして、学校側とボランティア側の双方をどのように導き、より生産性の高いものを創り出すためのヒントについて、指導を受けた。

(3) 学校支援コーディネーター同士の意見交換

ボランティアの方に達成感を味わっていただけ、取組のひろがりや継続性を担保するため、どのような工夫をされているかコーディネーターの立場からの意見交換が行われた。

(4) 参加者のアンケートより

- ・ワークショップで価値観の違い、意見の違いがあることを実感した。コミュニケーション力アップを心がけたい。
- ・今回の研修でいかに人と人とのつながりが大切であることを改めて感じました。笑顔、言葉、一つ一つの大切さを感じ、明日から少しでも実践していきたいです。



◆学校支援地域コーディネーター研修会 2

- 1 目的 学校と地域ボランティアを結びつけるために学校支援地域コーディネーターが果たす役割は、さらに期待されており、学校支援地域コーディネーター等の資質向上とネットワーク構築を図る。
- 2 主催 滋賀県、滋賀県教育委員会
- 3 参加対象 学校支援地域コーディネーター
- 4 日時 平成25年9月18日(水) 13:30～16:30
- 5 日程

13:00～13:30 受付

13:30～13:35 開会あいさつ

13:35～15:00 講演

講師：明貝 一平 氏

(大阪府田尻町立中学校区地域教育
協議会地域コーディネーター)

15:10～16:20 県内の取組状況の情報交換

16:20～16:30 まとめ(講師より)

- 6 場所 滋賀県庁新館7階大会議室

- 7 参加者数 45名

8 概要

- (1) 演題 「たじり t r y ・あんぐるの10年」
～ シカケ・キッカケ・コエカケの法則 ～

(2) 内容

大阪府田尻町立中学校区地域教育協議会「たじり t r y ・あんぐる」では、「地域みんなで子どもたちを育てていこう」という思いのもと、クリーン作戦、登校時の安全指導、親子料理教室、通学合宿などさまざまな取組が進められている。

そうした中、地域コーディネーターとして、既存の活動を学校の授業とリンクしたり、子どもを核としたつながりをつくったりするためのシカケ・キッカケ・コエカケの法則などを具体的事例をもとに紹介いただいた。

(3) 学校支援コーディネーター同士の意見交換

コーディネーターに求められる「受け止める」「知らせる」「つなぐ」「育てる」役割の中で、課題だと感じておられることやその課題解決のため、どのような工夫をされているかについての情報交換が行われた。

(4) 参加者のアンケートより

- ・災害時には避難所になる学校だからこそ、地域の方々に学校の中を知ってもらおうという話にとっても共感できました。
- ・シカケを工夫され、人脈、ネットワークを上手に活用されていることがとても参考になりました。
- ・講演会で具体的な取組の中に、シカケをまぜて話されたことがすごく心に残り、やってみたいと思える意欲をもつことができました。



◆二事業合同研修会（放課後子ども・家庭教育支援活動）

1 目的 県内で実施される「放課後子どもプラン」・「家庭教育支援活動」に関わるコーディネーターや教育活動推進員、家庭教育支援員、教育活動サポーター、指導員等の事業関係者が一堂に集まり、資質向上や情報交換等を図るための研修等を行い、県内における各事業の効果的な推進を図る。

2 主催 滋賀県、滋賀県教育委員会

3 参加対象 放課後子ども教室関係者・放課後児童クラブ関係者・家庭教育支援活動関係者
・子育て支援機関関係者・各市町行政関係者

4 日時 平成25年9月24日（火）9：30～12：00

5 日程

9：15～ 9：30 受付

9：30～ 9：35 開会行事

9：35～11：50 講演・演習 講師：幸重 忠孝 氏

（滋賀県スクールソーシャルワークスーパーバイザー）

11：50～12：00 閉会行事

12：00 閉会

6 場所 滋賀県庁東館7階 大会議室

7 参加者数 33名

8 概要

（1）演題 「ソーシャルワークの視点と支援」

（2）内容

スクールソーシャルワーカーとして多くの子どもや保護者と関わってこられた経験をもとに、講義・演習を通してソーシャルワークの視点を具体的に指導いただいた。子どもや保護者を様々な角度や方向から見ることにより一面的に決めつけず、その背景や状況等を含めて理解することの重要性について、研修を深めた。また、講師が京都市で実践されている「山科醍醐子ども広場」の活動をビデオで視聴し、家庭や学校でしんどさを抱える子どもたちを支える取組・実践を具体的に学んだ。

（3）参加者のアンケートより

- ・「やかんの話」などを通して、ソーシャルワークの視点をわかりやすく教えていただきました。子どもたちの本当の姿を、多方面から見られる（感じられる）指導者になりたいと思いました。
- ・日頃、自分の視点のみで物事を決めつけていないか、他の見方や考え方を聞きながら、振り返る機会をつくりたいと思います。
- ・子どもたちは家庭環境を選ぶことはできないが、地域で子どもの居場所づくりを提供することはできることを学びました。
- ・地域で実際に取り組まれている事例を紹介していただき、参考になる部分が多々あった。



◆三事業合同研修会

- 1 目的 実施市町における取組の成果を広く関係者に発信するとともに、地域社会全体で子どもの育ちを支える体制づくりを推進し、地域の教育力の向上を図るこれからのあり方について研修を深める。
- 2 主催 滋賀県教育委員会
- 3 参加対象 学校支援地域本部関係者、放課後子ども教室関係者、家庭教育支援活動関係者
市町担当職員、小中学校の教職員、PTA関係者
- 4 日時 平成26年1月31日（金）13:30～16:30
- 5 日程

13:30～ 開会行事
13:40～ 事例報告・講評
15:00～ 講演
講師：高木 和久 氏
（県推進協議会 委員）
16:15～ 質疑・応答

- 6 場所 滋賀県庁新館7階大会議室
- 7 参加者数 101名
- 8 概要



(1) 事例報告・講評



彦根市立中央中学校区
学校支援地域本部の取組



長浜市放課後子ども教室
(土曜学び座)の取組



近江八幡市家庭教育支援
の取組

講 評

全ての取組が、子どもや親の自尊感情を育てる豊かな取組である。地域の中に様々な形でそういう環境を根付かせてほしい。



県推進協議会
座長
神部 純一氏

(2) 講演

○演題 「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業のこれからを考える」

○内容

何のためにこの事業を推進するのかを再度確認する必要がある。この地域の子どもをどう育てるのかということ、地域と学校がしっかり熟議していくことが必要である。子どもが主役であることを忘れずに、子どもの声をしっかり聴き、子どもたちに自治の力を育む取組を推進していきたい。

(3) 参加者のアンケートより

- 改めて本事業の目的、地域コーディネーターの役割、学校と地域の連携で大切なポイント等を明確に説明いただき、有意義な講演であった。単純に地域の人に来ていただくだけでなく、その活動を子どもができるように教えてもらうことが大切であると共感を得た。
- 子どもありきの支援、子ども育ての視点からのアプローチを具体的にわかりやすく教えていただきました。時間はかかるが、一步一步地道に進めていければと思います。